

立山&剣岳山行報告

【山行日】2023年 8月19(土)~21(月)

【集 合】岩舟支所P AM 2:30

【費 用】マイカー1台 : 43,000円

【メンバー】CL:鈴木、SL:廣瀬

飯野、石澤、嶋田、福島、吉田

8月19日(土) 室堂から一ノ越経由で雄山・大汝山に登り、剣御前小屋から剣山荘へ

岩舟支所P2:30=立山駅P6:20/7:40++室堂

8:45/9:05 ~ 一ノ越 10:00/10:10 ~ 雄山

11:05/11:30~大汝山 11:50/12:30~

剣御前小屋 14:20/14:30~剣山荘 15:30

19日(土)2:30岩舟支所P出発 立山駅7:40ケーブルに乗る。WEBで切符を購入してもらったので切符売り場に並ばなくて済んだので凄く楽でした。美女平で高原バスに乗り換え、2年前に登った奥



大日岳を見ながらバスに揺られ室堂ターミナルに到着。トイレを済ませて外に出て、玉殿湧水前で準備体操して出発し、まずは一ノ越を目指す。広い石畳の道を多くの登山者と一緒に登って行く。

道の両側にはヨツバシオガマやハクサンボウフウ、タテヤマリンドウなどのお花が見られ、皆さん軽快に登って行く。前方には雄山が堂々と聳え、北アルプスの中にいることを実感できた。途中の祓堂と言われる祠がある場所

で休憩し、振り返って見ると室堂平や大日連峰の景色が素晴らしい。さらに石畳や石段の道を、九

十九折れに登って行くと一ノ越に着く。ここは稜線上の鞍部で展望が良く、休憩を取って疲れた足を休める。ここからは本格的な登山道になり、岩交じりの急坂を登るようになる。祠がある三ノ越で小休止し、さらに急坂を登りつめると 11:00 雄山到着。休んでいる間山頂に行っていない人だけ 700 円を払いお祓いをしてもらうが、順番待ちで時間が掛かってしまった。11:30 ここからヘルメットを被り出発、この辺りからガス、ガスになり眺望は望めなかった。岩稜の縦走路を歩くようになり、ほどなく立山連峰の最高峰大汝山山頂に着く。記念写真を撮るのも順番待ちで、ようやく写真を撮り大汝山休憩所まで降りて昼食を摂り、Kさんのポテトサラダをご馳走になる。



昼食が済んだら 12:30 出発。富士の折立辺りからガスが晴れこれから歩く稜線と蔵之介カールの



雪渓が顔を出した時、皆さんが(オー)と言う声を出し感激しました。真砂岳から別山を登りますが、巻道を進んで先を急ぎます。別山の鞍部に出ると剣岳がドーンと聳え、明日はその頂に登るのかと感動した。皆さん剣岳の雄姿をスマホに収め、剣岳をバックに写真を撮り合っていた。ここから小ピークを2つ越え、ようやく14:20 剣御前小屋に到着。ここからは剣御前の中腹に付けられた巻道を進み、剣沢やテント場を右に見て予定通り 15:30 剣山荘に到着した。この山荘はシャ

ワーがあるのでありがたい。それぞれシャワーを浴びて汗を流し、ビールと日本酒で乾杯し明日の剣岳の話で盛り上がる。18:00 から夕食になり、食事後明日に備え 19:00 就寝しました。

by 吉田

8月20日(日) 剣山荘から剣岳にピストンで登り剣山荘で昼食後、剣御前小屋から雷鳥坂を下って雷鳥沢ヒュッテに宿泊。

剣山荘 4:00～一服剣 4:30/4:40～前剣 5:20/5:30～カニノタテバイ 6:30～剣岳山頂 7:15/7:40～

カニノヨコバイ 8:10～一服剣 10:40/10:50～剣山荘 10:15/11:10～剣御前小屋 12:55/13:10～

雷鳥沢キャンプ場 14:20/14:30～雷鳥沢ヒュッテ 14:50



今朝の予定は、3時に食堂で小屋の弁当を食べて、身支度とトイレを済ませて、4時に出発する予定であったが、2時を過ぎる頃から、部屋の中のあちこちで身支度を始める人がいて、目覚ましは鳴る前に目が覚めた。皆さんも剣岳へ登頂できるか不安と緊張から早く目が覚めたのであろう。3時になり食堂へ行って、弁当とスープで朝食をとってから、身支度とトイレを済ませて、予定通り4時に出発した。この時間は周囲も暗くてヘッドランプがないと登山道も歩けない。暗い道を約 35 分登ると“一服剣”の山頂に着いた。

水分補給と衣服調整を行い、登山開始から初めて休憩をとった。『一服剣とは、登山者にちょっと休んでいきなさい。』ということかと思い、良い名であると感じた。この時間になると前剣の姿が、うっすらと影のように見えるようになった。前剣まで予定では 50 分である。行先が見えるようになると歩く意欲も湧いてくる。前剣の山頂へ着くころには青空になり 360° 見渡せる絶好の天気であった。目ざす剣岳の山頂が目の前に見えてきた。前剣から岩峰を下っていくと幅30cm、長さ3m 位の鉄のブリッジがあり慎重に渡っていく。



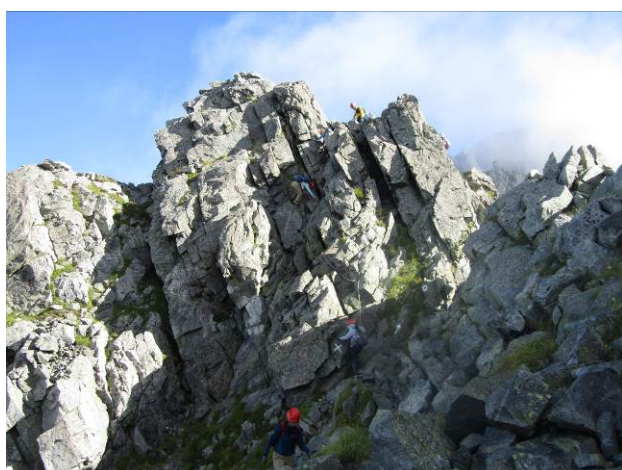
次は、狭い鞍部になっていて、ここも足を滑らせない様に注意して登った。しばらく登って行くと平蔵の頭であり、鎖と鉄杭を頼りに登りきった。更に岩の道を登って行くといよいよ垂直に近い40m位



あろうかと思われる岸壁に鎖と大きな鉄杭を打ちつけてある”カニノタテバイ“が見えてきた。順番に間隔をとりながら慎重に登って行く。結構ホールドとスタンスは多く、クサリやボルトもあるので思ったより難しくなく登れた。稜線に着くとしばらくの間、岩層の道を登って剣岳の山頂にたどり着いた。天候は快晴であり、360度見渡せる絶景である。リーダーとメンバーでとグータッチをして登頂を祝った。山頂祠の前で記念撮影し、休憩をとってゆっくり絶景を楽しんでから下山を開始した。この時間に

なると小さな雲が次々と湧いてきて、夏の登山は、早く登って雲ができなうちに登頂するのがベストだと痛感した。下山を開始してから間もなく、鎖のある岩場を横断する。”カニノヨコバイ“である。

1 歩目の足の置き場がわからないと聞いていたが、現在は赤いペイントで印がつけられていて迷うことなく足を下ろせ、渡ることができた。しかし、その後も長いハシゴを降りて、ほっとする間もなく鎖がある急な岸壁が続いた。リーダーの『前剣まで行けば危険なところはないので頑張ろう。』との言葉で気を引き締め直し下山した。一服剣に登り返して最後の休憩を



取り、目の前に聳える岩峰を見上げ「あそこに登って来たんだ！」と達成感に満たされた。一服剣から下って剣山荘へ戻り、早めの昼食をとった。少し休憩をしてから、今夜の宿泊地である雷鳥沢ヒュッテに向かった。昨日歩いてきた剣御前小屋へ向かって歩いていくと広いテント場があり、カラフルなテントが咲き乱れていた。剣御前小屋にはほぼ予定通り13時前に着いてトイレと休憩をとってから、雷鳥沢ヒュッテに向けて歩いた。長い長い雷鳥坂を下って

雷鳥沢を渡り、3 時過ぎにヒュッテに着き受付を済ませる。部屋で一休みして、温泉に入り山の疲れを癒した。その後、生ビールを頂きながら反省会を行い、夕食を済ませると 2 日間の疲れもあり早めに床に就いた。

8月21日(月) 雷鳥沢ヒュッテから室堂ターミナルへ行き、バスとケーブルカーを乗り継ぎ立山駅へ下り、マイカーに乗り換えて岩舟支所へ帰着。

雷鳥沢ヒュッテ 7:00～室堂ターミナル 7:40/8:05+++立山駅 9:10/9:50=岩舟支所 P15:30



今日は宿から室堂ターミナルまで歩いて行き、バスとケーブルに乗って立山駅に下るだけなので気が楽な一日である。皆さんも朝から露天風呂に浸かり、満足そうな顔で食堂に向かう。今日も朝から快晴で、大日連峰の景色を眺めながら美味しく朝食をいただいた。支度を整えたらヒュッテを7:00に出発し、急な石段を登って室堂ターミナルへ向かう。昨日剣岳に登った達成感に溢れ、皆さん軽快に歩いていた。途中、みくりが池に寄って水面に映る浄土山に大感激。「誰が一番上

手に撮れるか？」と言いながら、逆さ浄土山をスマホに収めていた。室堂ターミナルに着き、皆さんは最後の景色を楽しみ、我輩はチケット売り場でチケットを購入する。8時発のバスの案内があり、間に合うかなと心配すると5分前に皆さんが到着し列の最後尾に並ぶ。8時発のバスは満員になり、次の8:05発のバスで美女平らに向かう。天気が良いので景色も素晴らしく、バスの音声ガイドを聞きながら景色を楽しめた。美女平らからケーブルカーに乗り換え、立山駅に着いたらお土産をゲットし駐車場に向かう。靴を履き替え、着替えたら車に乗って出発する。立山ICから北陸道に入り、有磯海SA



に寄ってお土産を購入した。親不知・子不知付近は日本海の上を走るため、日本海の絶景に皆さん大喜び。東部湯の丸SAでランチタイムとなり、それぞれ好きな物をオーダーし美味しくいただいた。横川SAで最後の休憩をとり、その後も順調に走り予定よりも早く岩舟支所に帰着した。3日間晴天に恵まれ立山と剣岳の百名山2座を登破出来、大満足の山旅となった。